

QND Ver.9.1/9.1 SP1→QAW Ver.3.3 ～乗換手順書～

クオリティ株式会社

<http://www.quality.co.jp/>

最終更新日:2007/04/13

文書番号:QND91SP1→QAW33-N-200704

対象読者:QND管理者

| | |
|---------------------|----|
| 1. はじめに | 2 |
| 2. 乗換作業の流れ | 2 |
| 3. 乗換前の準備作業 | 3 |
| 4. マスターサーバの乗換 | 6 |
| 5. コンソールの乗換 | 12 |
| 6. スレーブサーバの乗換 | 17 |
| 7. ホストの乗換 | 19 |
| 8. 付録 | 21 |

1. はじめに

本手順書は、QND Ver. 9.1またはQND Ver. 9.1 SP1から、QAW Ver. 3.3へ移行する際の手順と注意点について説明したものです。

1-1 基本用語

本手順書で使用する用語を次の表に示します。

| 用語 | 説明 |
|-----------|---|
| QAW | QND PlusのアプリケーションDB機能を強化し、アセット管理とライセンスコントロールができるパッケージ |
| QAWコンソール | QNDサーバにアクセスし、クライアントPCの管理や収集した情報の管理を行う、管理者用のコンソール |
| QNDエージェント | QAWコンソールで作成したタスクをQNDホスト側で実行するためのプログラム 参照先：『QAW Ver. 3.3 -運用編-』「I 4-3 プル実行」 |
| QNDホスト | QNDサーバで管理しているPC |
| クライアント | QND/QAW管理下でないPC |
| 乗換（のりかえ） | QNDからQAWへの移行 |

1-2 動作環境

本手順書の乗換作業を実行する上での必要な動作環境は、次のとおりです。

- ▶ QAW Ver. 3.3の動作環境に準じている
- ▶ QND Ver. 9.1/9.1 SP1が運用されている環境

QAW Ver. 3.3の動作環境については、『QAW Ver. 3.3 -導入編-』「II 動作環境」を参照してください。

2. 乗換作業の流れ

本章では、乗換作業の流れについて説明します。
次の順序で乗換を実行します。

- ▶ 乗換前の準備作業
- ▶ マスターサーバの乗換
- ▶ コンソールの乗換
- ▶ スレーブサーバの乗換
- ▶ ホストの乗換

注意 乗換の順序

乗換は本手順書で案内している順序で進めてください。

また、必ず各PC（マスターサーバ/コンソール/スレーブサーバ/QNDホスト）すべての乗換を実行してください。順序どおり乗換を実行していない、もしくは一部PCが乗換を実行していない場合、運用上さまざまな問題が発生する恐れがあります。発生する問題については、「8-1 乗換が適切に実行されていないとき」(P. 21)を参照してください。

3. 乗換前の準備作業

本章では、マスターサーバ、スレーブサーバ、コンソール、ホストの乗換を実施する前の準備作業について説明します。

準備作業は次の手順で実施します。

- ▶ スレーブサーバのデータ転送の停止
- ▶ マスターサーバの停止とデータバックアップ
- ▶ スレーブサーバの停止とデータバックアップ
- ▶ コンソールのバックアップ

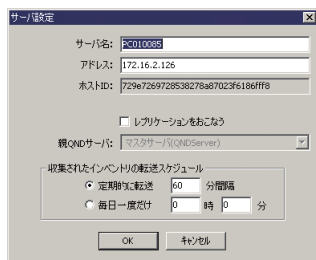
以下、詳述します。

3-1 スレーブサーバのデータ転送の停止

本節では、スレーブサーバからマスターサーバへのデータ転送を停止する手順について説明します。データ転送を停止していない状態で、QAW Ver. 3. 3への乗換を実施すると、トラブルが発生する可能性があります。必ず停止を実行してください。

手順1 QNDコンソールを起動し、グループ/フィルター一覧からスレーブサーバを右クリックして、表示されるコンテキストメニューから [プロパティ] をクリックします。
「サーバ設定」ダイアログが表示されます。

手順2 [収集されたインベントリの転送スケジュール] - [定期的に転送] を選択し、間隔を [0] 分に設定します。



手順3 [OK] をクリックします。
「サーバ設定」ダイアログが閉じます。
以上で、スレーブサーバからマスターサーバへのデータ転送の停止は終了です。

3-2 マスターサーバの停止とデータバックアップ

本節では、マスターサーバのサービスを停止しデータのバックアップを行う手順について説明します。マスターサーバの乗換を実施する前に必ず実行してください。

マスターサーバの停止手順

マスターサーバのサービスを停止します。
マスターサーバのサービスが稼働している状態で、QAW Ver. 3. 3への乗換やデータのバックアップを実施すると、トラブルが発生する可能性があります。必ず停止してください。
以下の手順にしたがって、マスターサーバを停止してください。

手順1 マスターサーバPCに、ローカルシステムアカウントでログオンします。

手順2 [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] - [サービス] をクリックします。

「サービス」ウィンドウが表示されます。




手順3 「Application Integrate Server」を右クリックして、表示されるコンテキストメニューから[停止]をクリックします。

手順4 「サービス」ウィンドウを閉じます。

以上で、マスターサーバのサービス停止は終了です。

データのバックアップ

次の表にしたがってマスターサーバの各ディレクトリのバックアップを実行します。

| バックアップ対象 | バックアップするディレクトリ |
|-------------------|---|
| [QNDPlus] ディレクトリ | <p>C:\Program Files\QNDPlus\のバックアップを実行</p> <p> 注意 インストール先を変更している場合 インストール先を変更している場合は、変更先のディレクトリをバックアップしてください。</p> <p> ヒント 元の場所に戻すファイル 乗換実行後、次の2ファイルを元の場所に戻す必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • \QNDPlus\bin\Rulea7.csv • \QNDPlus\etc\multicast.ini |
| [ApInServ] ディレクトリ | <p>%Windir%\ApInServ\のバックアップを実行</p> <p> 注意 ディレクトリサーバのインストール先を変更している場合 ディレクトリサーバのインストール先を変更した場合、ディレクトリサーバ本体は %Windir%\ApInServ\ にインストールされます。ただし、運用時に収集したデータ（変更しなかった場合は %Windir%\ApInServ\dirsrv\ 保存されています）は、変更先のディレクトリに保存されます。 ディレクトリサーバのインストール先を変更している場合は、データ保存先のディレクトリもあわせてバックアップしてください。</p> |

注意 設定パスがデフォルトでない場合

QND コンソールで [ツール] - [サーバ固有の設定] をクリックすると表示される「サーバ固有の設定」ダイアログの各タブで、ファイルの保存先パスを変更している場合は、それらのディレクトリを別途バックアップする必要があります。

設定変更を行っている場合は、次の表を参考にバックアップを行ってください。

| タブ名 | 設定項目 |
|--------|------------------------|
| エージェント | 「QNDエージェントを共有するディレクトリ」 |
| インベントリ | 「保存用QNDインベントリディレクトリ」 |
| サーバログ | 「ディレクトリ名」 |
| タスクログ | 「タスクログ移動先ディレクトリ」 |
| CSV設定 | 「CSVファイル保存用ディレクトリ名」 |
| 外部DB設定 | 「CSVファイル保存用ディレクトリ名」 |

3-3 スレーブサーバの停止とデータバックアップ

本節では、スレーブサーバのサービスを停止し、データのバックアップを行う手順について説明します。スレーブサーバの乗換を実施する前に必ず実行してください。

スレーブサーバの停止手順

スレーブサーバのサービスを停止します。

スレーブサーバのサービスが稼動している状態で、QAW Ver. 3. 3への乗換やデータのバックアップを実施すると、トラブルが発生する可能性があります。必ず停止してください。

以下の手順にしたがって、スレーブサーバを停止してください。

手順1 スレーブサーバPCに、ローカルシステムアカウントにてログオンします。

手順2 [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] - [サービス] をクリックします。

「サービス」ウィンドウが表示されます。

手順3 [Application Integrate Server] を右クリックして表示されるコンテキストメニューから[停止] をクリックします。

手順4 「サービス」ウィンドウを閉じます。

以上で、スレーブサーバのサービス停止は終了です。

データのバックアップ


次の表にしたがってスレーブサーバの各ファイルのバックアップを実行します。

| バックアップ対象 | バックアップするディレクトリ |
|----------------------|--|
| スレーブサーバのインストールディレクトリ | QND Ver. 9. 1/9. 1 SP1のスレーブサーバのインストール先に指定したディレクトリのバックアップを実行 |
| [ApInServ] ディレクトリ | %Windir%\¥ApInServ¥のバックアップを実行 ※スレーブサーバではディレクトリサーバのインストール先は変更できません |

3-4 コンソールのバックアップ

本節では、コンソールプログラムのバックアップについて説明します。

QNDコンソール、QIVコンソール、RCコンソールをマスターサーバと別PCで運用している場合、次の表を参考に、該当コンソールのディレクトリをバックアップします。

| バックアップ対象 | バックアップするディレクトリ |
|------------------|--|
| [QNDPlus] ディレクトリ | C:\¥Program Files¥QNDPlusのバックアップを実行  注意 インストール先を変更している場合 インストール先を変更している場合は、変更先のディレクトリをバックアップしてください |

4. マスターサーバの乗換

本章では、マスターサーバの乗換方法について説明します。
マスターサーバの乗換作業は、次の順序で実行します。

- ▶ マスターサーバの乗換
- ▶ 乗換後の確認
- ▶ QAWライセンスの登録

以下、詳述します。

4-1 マスターサーバの乗換

本節では、マスターサーバをQND Ver. 9.1/9.1 SP1からQAW Ver. 3.3へ乗換する手順を説明します。
以下の手順を実行することで、タスクやインベントリデータ、アプリケーションDBの設定が、QAW用に自動的に更新されます。

手順1 マスターサーバをインストールしているPCに、ローカルシステムアカウントでログオンします。

手順2 QAW Ver. 3.3の製品CD（以下製品CD）をセットします。

Quality Product Menuが起動します。

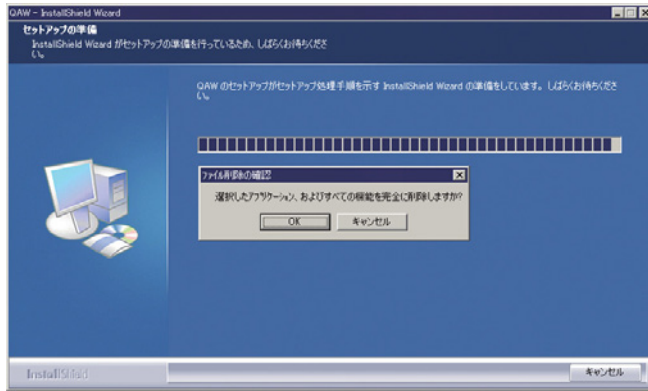
（起動しない場合は、製品CD内のautorun.exeをダブルクリックして起動させます。）



手順3 [Quality Asset Watcher] をクリックして展開し、[QAW Server Setup] をクリックします。



インストーラが起動し、「ファイル削除の確認」ダイアログが表示されます。



注意 QND Ver. 9.1/9.1 SP1で管理していたデータ

乗換時には、QND Ver. 9.1/9.1 SP1のアンインストールを実行しますが、ホストやタスクなどの情報は削除されません。手順にしたがって乗換を完了すると、QND Ver. 9.1/9.1 SP1で運用していた情報を、引き続き利用できます。

手順4 [OK] をクリックします。

QND Ver. 9.1/9.1 SP1がアンインストールされます。

「メンテナンスの完了」ダイアログが表示されます。



手順5 [完了] をクリックします。

Quality Product Menuに戻ります。

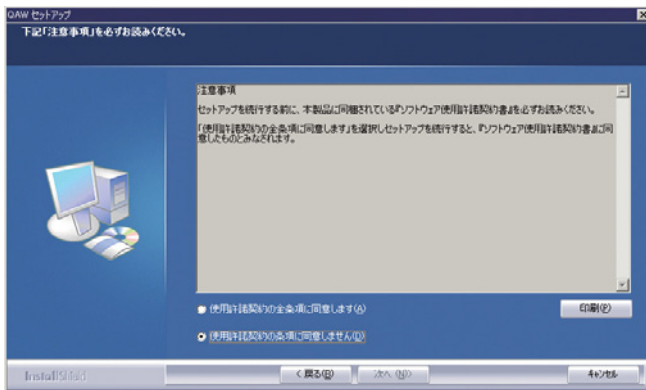
(表示されない場合は、製品CD内のautorun.exeをダブルクリックして起動させます。)

手順6 [Quality Asset Watcher] をクリックして展開し、[QAW Server Setup] をクリックします。

「Quality Asset WatcherのInstallShield Wizard へようこそ」ダイアログが表示されます。



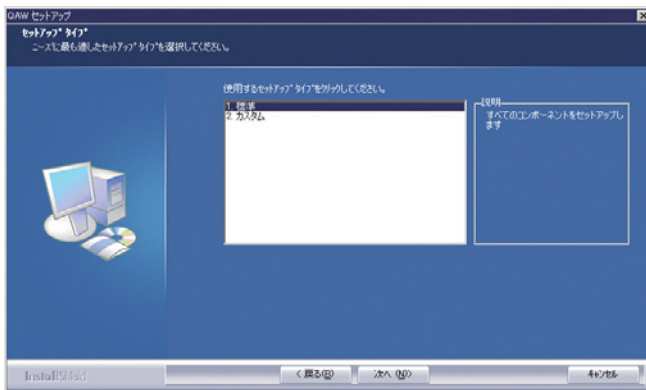
- 手順7 [次へ] をクリックします。
「注意事項」ダイアログが表示されます。



注意 使用許諾契約

「使用許諾契約」は必ずお読みください。

- 手順8 使用許諾の内容に同意する場合は、[使用許諾契約の全条項に同意します] をオンにし、[次へ] をクリックします。
「セットアップタイプ」ダイアログが表示されます。



- 手順9 [1. 標準] を選択し、[次へ] をクリックします。
「インストール先の選択」ダイアログが表示されます。

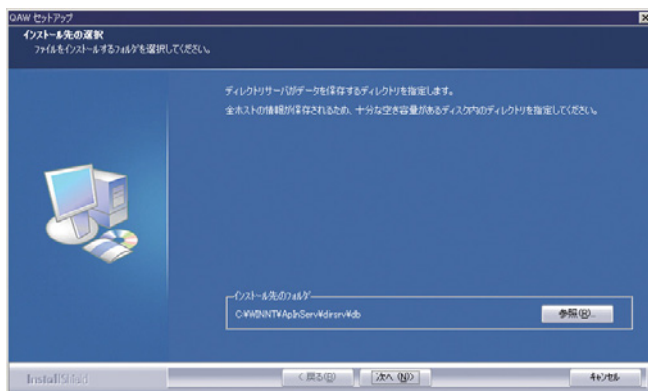


注意 QND Ver. 9.1/9.1 SP1と同じインストール先を選択

「インストール先の選択」では、必ずQND Ver. 9.1/9.1 SP1と同じインストール先を選択してください。異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。

手順10 インストール先のディレクトリを確認して、[次へ] をクリックします。

[Application Integrate Server] ディレクトリの「インストール先の選択」ダイアログが表示されます。

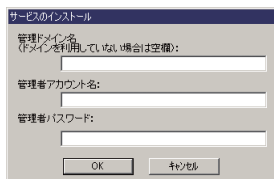


注意 QND Ver. 9.1/9.1 SP1と同じインストール先を選択

「インストール先の選択」では、必ずQND Ver. 9.1/9.1 SP1と同じインストール先を選択してください。異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。

手順11 [Application Integrate Server] ディレクトリのインストール先を確認して、[次へ] をクリックします。

「サービスのインストール」ダイアログが表示されます。



手順12 次の表を参考に内容を入力します。

| 項目 | 説明 |
|-----------|--|
| 管理ドメイン名 | ドメイン管理されている場合はドメイン名を入力 (ワークグループの場合は空欄) |
| 管理者アカウント名 | マスターサーバPCが所属するドメインの管理者権限を有するアカウント名、 ドメイン管理されていない場合はPCのローカルシステムアカウント名を入力 |
| 管理者パスワード | 上で入力した管理者アカウントのパスワードを入力 |

手順13 [OK] をクリックします。
メッセージダイアログが表示されます。



手順14 [OK] をクリックします。
インストール完了のメッセージダイアログが表示されます。



手順15 [OK] をクリックします。
インストール完了のメッセージダイアログが閉じます。

手順16 「データのバックアップ」(P.4) でバックアップしておいたファイルのうち、次の2つを元の場所にコピーします。

- %QNDPlus%\bin\Rulea7.csv
- %QNDPlus%\etc\multicast.ini

手順17 乗換を行うと、QIVの一部の設定がデフォルト設定に戻ります。QIVコンソールを起動して、「CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」の設定を元の設定に戻します。
詳細な手順については、お手元の『QIV』マニュアルを参照してください。
以上で、マスターサーバのQND Ver. 9.1/9.1 SP1からQAW Ver. 3.3への乗換は終了です。

4-2 乗換後の確認

本節では、乗換作業の確認について説明します。
インストール完了後、次の点を確認してください。

▶ QAWへの乗換完了を確認

乗換完了は、次の手順で確認します。

手順1 C:\Program Files\QNDPlus\bin\UNICODE\jaを開きます。

手順2 [QAWOption.ex_] ファイルが存在することを確認します。

▶ Application Integrate Serverの起動を確認

Application Integrate Serverの起動の有無は、次の手順で確認します。

手順1 [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] - [サービス] をクリックします。
「サービス」 ウィンドウが表示されます。

手順2 [Application Integrate Server] の状態が [開始] になっているか確認します。

▶ QAW関連のプロセス稼働の有無を確認

「Windowsタスクマネージャ」を表示させ、[プロセス] タブをクリックします。
次のプロセスが動作中であることを確認してください。

- acpsrv
- AppServ.exe
- FileServer.exe
- QIVServer
- QNDSVR
- SkipServ

4-3 QAWライセンスの登録

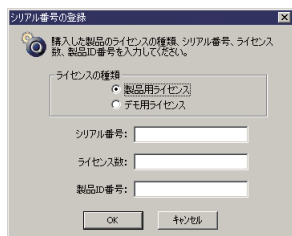
本節では、乗換後のQAWライセンスの登録方法について説明します。
インストール後QAWのライセンスを登録してください。

注意 QAWコンソールの乗換

コンソールをマスターサーバとは別のPCにインストールしている場合は、先に「[5-1 コンソールの乗換](#)」(P.12)を参照し、コンソールの乗換を実施してください。

手順1 QAWコンソールを起動します。

乗換後の初回起動時に「シリアル番号の登録」ダイアログが開きます。



手順2 QAW Ver. 3.3のシリアル番号、ライセンス数、製品ID番号を入力し [OK] をクリックします。
以上で、QAWライセンスの登録は終了です。

5. コンソールの乗換

本章ではコンソールの乗換手順について説明します。
コンソールをQNDサーバPCと別PCで運用している場合は、本章を参照してください。
コンソールをQNDサーバPCと同じPCで運用している場合は、マスターサーバの乗換によって、コンソールの乗換も完了しています。本章をスキップしてください。

▼ 注意 コンソール設定

乗換を実施すると、QAW、QIV、RCの各コンソールの設定にはデフォルトの値にクリアされる恐れがあります。

コンソールの乗換作業は、次の順序で実行します。

- ▶ [コンソールの乗換](#)
- ▶ [乗換後の確認](#)

以下、詳述します。

5-1 コンソールの乗換

本節では、コンソールプログラムの乗換手順について説明します。
次の手順にしたがって乗換を実行してください。

手順1 コンソールをインストールしているPCに管理者アカウントでログオンします。

手順2 製品CDをセットします。

Quality Product Menuが起動します。

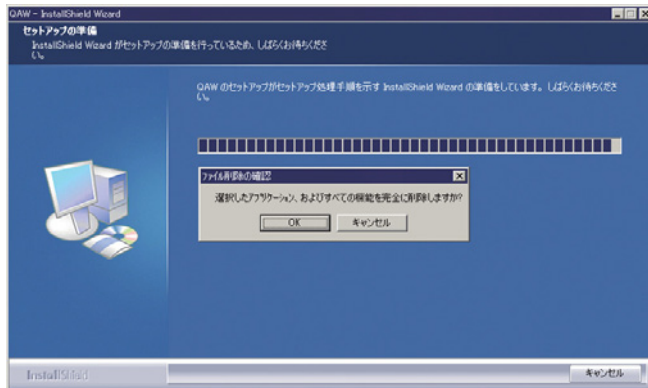
(起動しない場合は、製品CD内のautorun.exeをダブルクリックして起動させます。)



手順3 [Quality Asset Watcher] をクリックして展開し、[QAW Server Setup] をクリックします。



インストーラが起動し、「ファイル削除の確認」ダイアログが表示されます。



- 手順4 [OK] をクリックします。
 QND Ver. 9.1/9.1 SP1のコンソールがアンインストールされます。
 「メンテナンスの完了」ダイアログが表示されます。

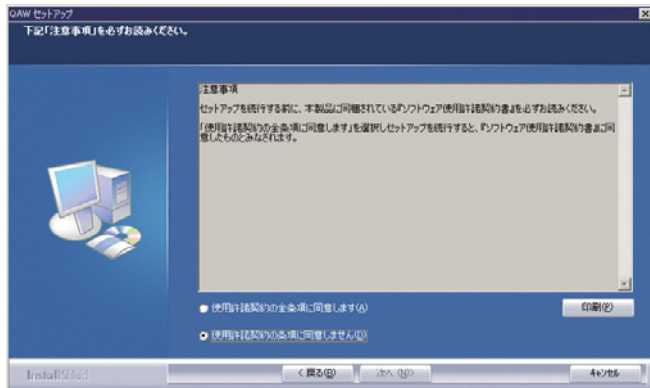


- 手順5 [完了] をクリックします。
 Quality Product Menuに戻ります。
 (表示されない場合は、製品CD内のautorun.exeをダブルクリックして起動させます。)

- 手順6 [Quality Asset Watcher] をクリックして展開し、[QAW Server Setup] をクリックします。
 「Quality Asset WatcherのInstallShield Wizard へようこそ」ダイアログが表示されます。



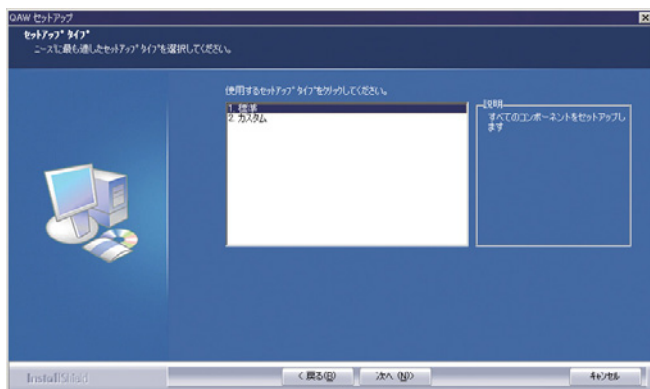
- 手順7 [次へ] をクリックします。
 「注意事項」ダイアログが表示されます。



注意 使用許諾契約

「使用許諾契約」は必ずお読みください。

- 手順8** 使用許諾の内容に同意する場合は、[使用許諾契約の全条項に同意します] をオンにし、[次へ] をクリックします。
「セットアップタイプ」ダイアログが表示されます。



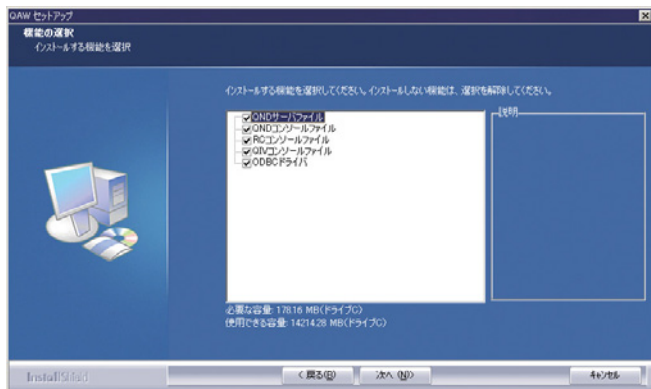
- 手順9** [カスタム] を選択して [次へ] をクリックします。
「インストール先の選択」ダイアログが表示されます。



注意 QND Ver. 9.1/9.1 SP1と同じインストール先を選択

「インストール先の選択」では、必ずQND Ver. 9.1/9.1 SP1と同じインストール先を選択してください。異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。

- 手順10 インストール先のディレクトリを確認して、[次へ] をクリックします。
「機能の選択」ダイアログが表示されます。



- 手順11 [QNDサーバファイル] のチェックを外します。

- 手順12 次の表を参考にインストールする項目にチェックを入れ、[次へ] をクリックします。

| 項目 | 説明 |
|--------------|-----------------|
| QNDコンソールファイル | QAWコンソールをインストール |
| RCコンソールファイル | RCコンソールをインストール |
| QIVコンソールファイル | QIVコンソールをインストール |
| ODBCドライバ | ODBCドライバをインストール |

インストールが開始されます。

インストール完了のダイアログが表示されます。



- 手順13 [完了] をクリックします。

インストール完了のダイアログが閉じます。

以上で、コンソールのQND Ver. 9.1/9.1 SP1からQAW Ver. 3.3への乗換は終了です。

5-2 乗換後の確認

本節では、コンソールプログラム乗換後の確認方法について説明します。
QAW コンソールを起動し、メニューより [ヘルプ] - [バージョン情報] を確認してください。



[QAW Version] が [3.3.0] であることを確認してください。

以上で、乗換後の確認は終了です。

6. スレーブサーバの乗換

ここでは、スレーブサーバの乗換手順について説明します。
スレーブサーバの乗換は、スレーブサーバプログラムの上書きインストールによって実行します。

⚠ 注意 マスターサーバとスレーブサーバの乗換

マスターサーバの乗換後、直ちにスレーブサーバの乗換を実行してください。QND Ver. 9.1/9.1 SP1のスレーブサーバでは、QAW Ver. 3.1以降のスレーブサーバの一部の機能が利用できません。

スレーブサーバの乗換作業は、次の順序で実行します。

- ▶ スレーブサーバの上書きインストール
- ▶ インストール後の確認

以下、詳述します。

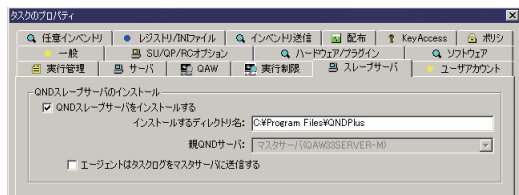
6-1 スレーブサーバの上書きインストール

本節では、スレーブサーバの上書きインストール手順について説明します。
次の手順にしたがって、上書きインストールを実行してください。

- 手順1 QAWコンソールメニューから [タスク] - [タスク作成:名前のみ] をクリックします。
「タスクの作成」ダイアログが表示されます。
- 手順2 [全機能タスク] を選択して、タスク名を入力します。
- 手順3 [OK] をクリックします。
タスク一覧に作成したタスク名が追加されます。
- 手順4 作成したタスクをダブルクリックします。
「タスクのプロパティ」ダイアログが表示されます。
- 手順5 [スレーブサーバ] タブをクリックし、[QNDスレーブサーバをインストールする] にチェックを入れます。
- 手順6 [インストールするディレクトリ名] へ現在のスレーブサーバがインストールされているディレクトリ名を指定します。

⚠ 注意 QND Ver. 9.1/9.1 SP1と同じインストール先を選択

「インストール先の選択」では、必ずQND Ver. 9.1/9.1 SP1と同じインストール先を指定してください。異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。



- 手順7 QNDエージェントを作成します。
- 手順8 作成したQNDエージェントをスレーブサーバPCでプル実行します。

注意 プッシュ実行で実行する場合

QND Ver. 9.1/9.1 SP1のQPオプションの接続先が、マスターサーバではない可能性があります。プッシュ実行でスレーブサーバの乗換を実行する場合は、スケジュールの追加時に、[エージェントが接続するサーバ名]でQAW Ver. 3.3への乗換を実施したサーバを指定し、[このサーバをデフォルトにする]にチェックを入れてください。接続先が正しくないままタスクをプッシュ実行した場合、スレーブサーバの乗換が正しく完了できない場合があります。

以上で、スレーブサーバの上書きインストールは終了です。

6-2 インストール後の確認

本節では、インストール後の確認手順について説明します。スレーブサーバインストール後、次の点を確認してください。

※インストール完了後、QAWコンソールの表示を更新してください。

QAWへの乗換が完了していることの確認

スレーブサーバの運用を開始する前に、正しく乗換が完了していることを確認します。スレーブサーバ乗換の確認は、次の手順で行います。

手順1 C:\Program Files\QNDPlus\bin\UNICODE\jaを開きます。

手順2 [QAWOption.ex_]ファイルが存在することを確認します。

QAWコンソールからスレーブサーバとマスターサーバの通信状態の確認

QAWコンソールから、スレーブサーバとの通信状態を確認することが可能です。[グループ/フィルタ]一覧上のスレーブサーバPCが水色で表示されていればQNDサーバと通信可能となっています。

※水色で表示されない場合は、スレーブサーバのサービスが稼動しているか確認してください。

スレーブサーバに接続可能か否かを確認

乗換後、スレーブサーバに実際に接続して、サービスが起動していることを確認します。

QAWコンソールでスレーブサーバを右クリックし、[コンソールで接続]を選択します。QAWコンソールがスレーブサーバに接続され、起動することを確認してください。

※接続できない場合は、スレーブサーバのサービスが稼動しているか確認してください。

スレーブサーバのデータ転送の確認と再開

「3. 乗換前の準備作業」(P.3)で、停止していたスレーブサーバのデータ転送を再開します。スレーブサーバのデータ転送の確認と再開は次の手順で行います。

手順1 QAWコンソールでスレーブサーバを右クリックし、表示されるコンテキストメニューより [プロパティ]を選択します。

手順2 [定期的に転送]を確認し、[0]分から設定していた時間に戻します。(推奨値は60分以上)
以上で、インストール後の確認は終了です。

7. ホストの乗換

本章ではホストの乗換手順について説明します。ホストの乗換は、クライアントプログラムの上書きインストールによって実行します。

ホストの乗換作業は、次の順序で実行します。

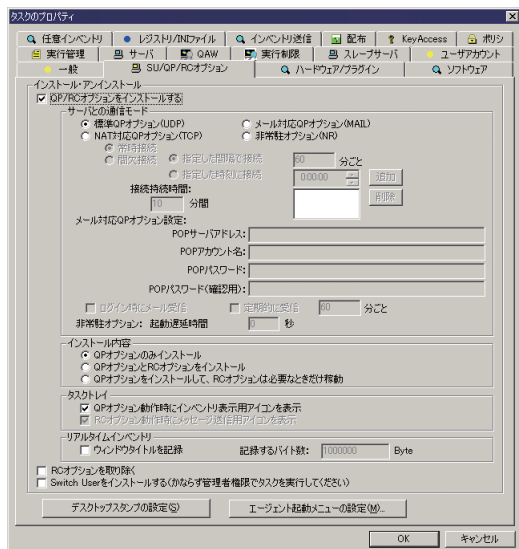
- ▶ クライアントプログラムの上書きインストール
- ▶ インストール後の確認

以下、詳述します。

7-1 クライアントプログラムの上書きインストール

本節では、クライアントプログラムの上書きインストール実行手順を説明します。次の手順にしたがってクライアントプログラムの上書きインストールを実行してください。

- 手順1 QAWコンソールメニューから [タスク] - [タスク作成:名前のみ] をクリックします。
「タスクの作成」ダイアログが表示されます。
- 手順2 [全機能タスク] を選択して、タスク名を入力します。
- 手順3 [OK] をクリックします。
タスク一覧に作成したタスク名が追加されます。
- 手順4 作成したタスクをダブルクリックします。
「タスクのプロパティ」ダイアログが表示されます。
- 手順5 [SU/QP/RCオプション] タブをクリックします。
- 手順6 [QP/RCオプションをインストールする] にチェックを入れます。



- 手順7 [OK] をクリックします。
「タスクのプロパティ」ダイアログが閉じます。
- 手順8 QNDホストに対し、タスクをプル実行またはプッシュ実行します。
以上で、ホストの乗換は終了です。

7-2 インストール後の確認

本節では、インストール後の確認方法について説明します。
QAWOption.exeが存在することを確認することで、クライアントプログラムの上書きインストールが完了していることを確認できます。
次の手順にしたがって、確認を実行してください。

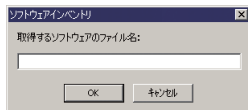
手順1 新規タスクを作成します。

手順2 作成したタスクをダブルクリックします。
「タスクのプロパティ」ダイアログが表示されます。

手順3 [ソフトウェア] タブをクリックします。

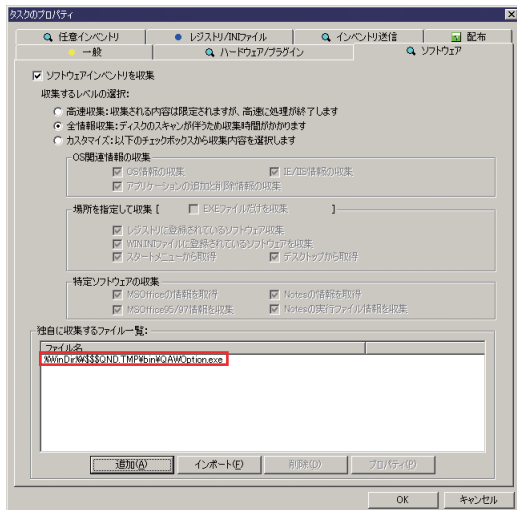
手順4 [ソフトウェアインベントリを収集] にチェックを入れます。
[独自に収集するファイル一覧] の [追加] がアクティブになります。

手順5 [追加] をクリックします。
「ソフトウェアインベントリ」ダイアログが表示されます。



手順6 [%WinDir%¥\$\$\$QND.TMP¥bin¥QAWOption.exe] を入力します。

手順7 [OK] をクリックします。
「独自に収集するファイル一覧」に「%WinDir%¥\$\$\$QND.TMP¥bin¥QAWOption.exe」が追加されます。



手順8 作成したタスクを乗換を実行済みのQNDホストに対して、プル実行またはプッシュ実行します。

手順9 QAWコンソールで、収集したソフトウェアインベントリを確認します。
ソフトウェアインベントリにQAWOption.exeが存在することを確認してください。
以上で、インストール後の確認は終了です。

8. 付録

8-1 乗換が適切に実行されていないとき

乗換が適切に実行されていないとき、以下のような問題が発生します。
次の表にある問題が発生した場合は、表に記載されている原因を参考に、対策を講じてください。

| 発生した問題 | 原因 |
|--|---|
| <p>QAWコンソールをスレーブサーバに接続した際に、コンソールのユーザインターフェースが、QNDのユーザインターフェースになっている</p> | <p>マスターサーバをQND Ver. 9.1/9.1 SP1からQAW Ver. 3.3に乗り換えた際、マスターサーバとスレーブサーバが通信できる状態であれば、スレーブサーバのライセンスもQAWに変更される</p> <p>スレーブサーバがマスターサーバと通信できない状態では、スレーブサーバのライセンスは変更されず、スレーブサーバのライセンスはQNDが使用される</p> <p>この状態でコンソールからサーバ接続した場合に、マスターサーバはQAWのユーザインターフェース表示でも、スレーブサーバは使用されているライセンス (QND or QAW) のUI表示となる</p> |
| <p>QNDホストPCで、QAW固有の機能（リアルタイムインベントリやアプリケーションDBを利用したソフトウェアの起動制限など）が動作しない。正常動作しないにも関わらず、ログにエラー等が出力されない</p> | <p>マスターサーバ、スレーブサーバ、コンソールの乗換が完了しているが、QNDホストの乗換は未実行</p> |
| <p>QND Ver. 9.1/9.1 SP1のスレーブ配下のQNDホストをQAW Ver. 3.3に乗換できない ※QNDログに「QHostID.dll」「QAWHooks.dll」「QAWOption.exe」の転送エラーのログが出力される</p> | <p>スレーブサーバの乗換が完了していない</p> <p>スレーブサーバのQAW Ver. 3.3への乗換実行前では、スレーブサーバにクライアントの乗換を実行するために必要なファイルが存在しないため、スレーブサーバPCが乗換前の場合は、スレーブサーバ配下のQNDホストは、QAW Ver. 3.3への乗換を実行できない</p> |
| <p>スレーブサーバPCに「同期：ファイル等」を実行した場合に、スレーブサーバプログラムをインストールするタスクを実行していないのも関わらず、マスターサーバPCからスレーブサーバPCへQAW関連のファイルが自動的にコピーされる</p> | <p>マスターサーバ、コンソールの乗換が完了しているが、スレーブサーバの乗換が完了していない</p> |
| <p>RCオプションのサービスが停止している</p> | <p>QND Ver. 9.1/9.1 SP1で、RCオプションがインストールされていたホストに対して、QAW Ver. 3.3への乗換実行後にRCオプションのインストールを実行すると、RCオプションのサービスが停止する場合がある</p> <p>このような場合でも、サービスを手動で起動するか、ホストの再起動を行うことで復帰可能</p> |